

高齢者公益事業部

2020年2月以降の新型コロナウイルス感染症対策では、感染拡大防止を最優先した運営を継続してきた。入居者、職員、関係者と十分なコミュニケーションがとりづらくなっていること、制限され続けた生活・行動によって疲弊感が蓄積していることに鑑み、2023年度はコロナと共存する新しいフェーズに対応した運営に取り組みたい。

浜名湖エデンの園は開設50周年を迎える。エデンの園開設50周年の節目に全施設でエデンの園の歩み、存在意義、あるべき姿を共有して、事業を継続することの重責を自覚し、先延ばしすることなく、引き続き経営力の強化を推し進める。2025年度着工予定の宝塚エデンの園建替え工事をはじめ、長期的に各施設の建替えに対応していく必要がある。2022年10月に油壺エデンの園の管理費を改定したが、物価高騰等の影響に対応し、安定的な事業運営を確保したい。また、2024年度の医師の働き方改革を見据え、各診療所及び医療サービスの提供体制を検討する。自然災害、感染症のBCP（事業継続計画）に基づき実践的な訓練を行い、有事の際の対応力、応用力を高めることも重要な課題である。

人材確保に関しては、「働きたい」「働き続けたい」と思える特徴がある施設なのか、各施設の強みを「見える化」し、継続的に情報発信を行う。腰痛予防に繋がるノーリフトケア、介護予防活動に繋がるICTの導入を推進するほか、働きやすい職場環境を実現するため事業部健康経営推進指標により評価を実施したい。

サービス提供では、介護職員の確保、負担軽減のため、業務の切り出しにより介護補助者導入等、生産性の向上に繋がる業務改善を検討するとともに、サービスの質と量の標準化を図る取り組みを実施したい。また、見守りシステムやLIFE（科学的介護情報システム）のデータを活用したケアサービスを実践する。

聖隷DXを推進するため、事業部への労務業務の集約化を継続するとともに、業務ルールの統一により処理の効率化と質の確保を図りたい。

入居者募集では、実質的な空室ゼロ、入居率94%を目標とした取り組みを強化するため、個別見学と中小規模のセミナーを組み合わせた集客対応をさらに推進する。また、エデンの園の特徴、強みをPRするための専門メディアを製作して、それぞれのエデンの園にマッチした検討者をより多く獲得し、入居契約に結び付けたい。2023年度以降、明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社からの受託事業）の入居者募集業務を担当するため、これまで以上に直営、共同事業、受託事業の間の連携と協働が重要となる。直営7施設の目標数値として、入居契約件数134件、入園金合計45億円、事業部全体の当期活動増減差額3億円を目指す。

また、既存の事業や枠組みに捉われない新たな高齢者施設を検討し、エデンの園開設100周年を迎えることができるよう、次の50年に向かって着実に歩み続けたい。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の実践
2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
 - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
 - (ウ) 医療サービス提供体制の見直し
 - (エ) 防災対策の強化
 - (オ) 事務処理の効率化の推進
3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 地元人材の採用
 - (イ) 職場環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ
4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) 介護・看護の質を向上させる新たな取組みの実践
 - (オ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2023 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 一番館	藤沢 二番館	合計
件 数	28 件	12 件	16 件	30 件	13 件	18 件	17 件	0 件	134 件
入居率	94.2%	82.8%	84.9%	95.8%	95.5%	100%	99.0%	88.0%	92.1%

※月払プラン件数含む

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

ここ数年、園の運営において新型コロナウイルスの話題が真っ先にのぼることに変わりはないが、2022年度は「ウイルスを園内に侵入させないこと」を最優先に考え、コロナの影響を最小限に抑えながら、可能な限り入居者や関係する方々の行動制限が緩和できるよう取り組んできた。2023年度は新型コロナウイルスに限らず、あらゆる感染症や自然災害等の対策を継続し、コロナ禍前の園内生活を取り戻す方策を実行していく。特に介護居室においてはすでに3年近く面会制限を設けており、介護居室の入居者が家族や友人等と安全・安心に面会ができるよう、検討を重ねる。

サービス・支援体制においては、自立入居者対象のトレーニングマシンの充実やパーソナルトレーニングの強化、ウォーキング企画の更なる推進等、介護予防のための適切な運動プログラムを提供し、筋力低下予防や健康維持・増進の強化に取り組む。もう一つの柱「入居者のその人らしい生活を支える」という点においては、入居者の入居から終末期まで情報を一元化し、入居者参画型のアドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）の仕組みづくりを図る。そのために、全課の連携やコミュニケーションを強化し、チームケアを実現していく。

業務改善として、今まで導入して来た介護負担軽減機器に加え、介護居室全室に見守りシステムを導入し、入居者の更なる安全の確保と、職員の業務負荷の軽減に努める。また、専門職それぞれが専門性を発揮できるよう、多職種を交えて業務のすみわけを検討し、その中に障がい者雇用の有用性を見出し新規採用に繋げたい。

経営面では、社会情勢による物価高騰等不安定な状況が長引きそうであり、園運営に大きく影響することが容易に予想される。費用削減には職員一人ひとりが対応策を考え実践していくとともに、課・園全体でも「SDGs」を意識した取り組みを行っていく。

公益事業としては、入居者と共に実施する地域の清掃活動の継続と、災害時の地域支援マニュアルの策定を進める。また地域の方々の行事参加や相互交流等の再開についても検討する。

浜名湖エデンの園は、2023年5月1日に開園50周年を迎える。1年を通じて入居者と職員が共に祝い、記録と記憶に残る年となるよう記念行事を実施していく。入居者の笑顔を大切に、そして、それを支える職員にも笑顔が溢れる園づくりを目指す。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) パーソン・センタード・ケア (PCC) に基づく、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の継続と評価
 - (イ) 入居から終末期までの情報を一元化し、入居者参画による「その人らしい生活を支える」仕組みづくり
 - (ウ) 標準サービスの質の検証とサービスの「適正化」
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) 自ら考え、行動できる人材の育成
 - (ウ) AI・ICT 導入による「働き方改革」のさらなる推進
 - (エ) 障がい者雇用の促進
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 「事業運営計画」の全職員の理解と達成への参画
 - (イ) 入居率 95%を目指す入居者募集活動の推進
 - (ウ) 課・係・個人のそれぞれのレベルでの役割分担と業務整理
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) 感染症防止対策の継続的な取り組み
 - (イ) コンプライアンス体制と教育の強化
 - (ウ) 緊急時対応ができる職員の育成
 - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備・機器の導入検討
5. 入居者と共に成長し続ける浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) エデンの園開設 50 周年記念事業を入居者・園職員・事業部と協同で取り組む
 - (イ) 入居者に向けた健康維持、増進サービスの提案
 - (ウ) 入居者と共に「With コロナ」の中で楽しめる園づくり
 - (エ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の推進

【数値指標】

2023 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	349 戸/372 戸		55 戸/57 戸		404 戸/429 戸			
入居者数/定員	427 名/455 名		56 名/64 名		483 名/519 名			
入居率	93.8%		96.5%		94.2%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	27 名	15 名	39 名	13 名	25 名	15 名	6 名	140 名
職員数 (常勤換算)	134.2 名							
サービス活動収益	904,260 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2022年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大と収束を繰り返す中、入居者の協力のもと感染予防の徹底と感染時の拡大防止対策の実施等、職員の不断の取組によりクラスターを発生させることなく運営することができた。建替え計画においては、入居者へ全体及び棟別説明会を開催し、2025年度着工に向けて推進することができた。

2023年度は、With コロナ時代と捉え、入居者の安心・安全を守りながら変化した生活様式の中で、積極的に課題に取り組んでいく。

建替え計画については、住替え・仮住いの要望や不安・心配事などをお聞きするために戸別の入居者訪問を開始する。不安や心配事をできる限り軽減するための取組を行っていく。

サービスを深化させるため、職員一人ひとりが常に施設理念に立ち返った誠実な行動をし、各々の専門性を活かしながら、入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」を目指す。職員の「働きがい」なくしてサービスの質向上は図れない。上司と部下を始めとした職員間の「対話」の総量を増やすことで、働きやすさとやりがいを高めていく。

資源価格の高騰や医師の働き方改革など厳しい外部環境が施設運営に大きな影響を与えている、あるいは与えると予測される。経営の健全化を進めるため職員が一丸となり経営方針を実行し、各部署が年度計画を達成することで収支改善を図る。

近年、自然災害の頻発・激甚化が進んでいる。BCP（事業継続計画）に基づく実践的防災訓練を強化し、入居者へ防災意識向上の啓発活動を実施する。また不審者対応等に関する訓練の実施などの確なりリスク対策を行う。

持続可能な社会・地域共生社会の実現に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）としての活動を念頭に置き、WAC事業（ふるさと21健康長寿のまちづくり事業）を中心に取り組んでいく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたりより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア)入居者がどの職員にも相談できる「全員コンシェルジュ」の宣言
 - (イ)「食べたくなる」「健康になる」食事の提供
 - (ウ) 情報発信の強化による安心の提供

(エ) 建替え計画に伴う不安や心配事軽減への取組

2. 職員満足度の向上

(ア) 職員間の「対話」の総量を増やすための取組

(イ) 職場・職員間の連携強化への取組

(ウ) 本部採用センターとの連携強化による人材確保

(エ) 健康経営に関する取組

(オ) AI（人工知能）、ICT（情報通信技術）等の活用による業務効率化

3. 安定した経営基盤の確立

(ア) 中期収支目標の策定とアクションプランの実行

(イ) 2024年医師の働き方改革を見据えた診療所運営の在り方の検討

(ウ) 建替え後を見据えた入居者募集活動の推進

4. 安全・安心な暮らしの提供

(ア) BCPに基づく実践的防災訓練の強化

(イ) 行方不明・離園防止・不審者対応訓練の徹底

(ウ) 防災意識向上に向けた入居者への啓発活動の実施

(エ) リスク、苦情への迅速な対応

5. SDGsとしての活動を念頭においた、地域における公益的な取組

(ア) WAC事業として文化教養講座、コンサートの開催

(イ) 地域住民への各種健康診断の機会の提供

(ウ) サステナブル活動の実施

【数値指標】

2023年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	297戸／358戸		41戸／50戸		338戸／408戸			
入居者数／定員	347名／501名		42名／50名		389名／551名			
入居率	83.0%		82.0%		82.8%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	26名	11名	35名	16名	17名	9名	6名	
職員数(常勤換算)	132.5名							
サービス活動収益	859,400千円							

有料老人ホーム 松山エデンの園

2022年度は、新規契約数17戸18名を目指し募集活動に注力した1年であった。メディアの積極的活用や居宅事業所への渉外活動を行い、特に介護居室への直接入居募集に力を入れた。入居者サービス面においては感染防止対策に留意しながら徐々にではあるが園行事やクラブ活動の再開することができた。

2023年度は経営改善に向け、募集見学会の工夫、居宅事業者・紹介業者との連携を図り、介護居室の直接入居募集の継続や月払いの導入、愛媛県で開催される全国健康福祉祭「ねんりんピック」を活用した広報活動による入居率向上に注力したい。また介護サービス量に見合った介護度への変更による安定的な介護報酬収益の確保や喫食率向上を意識した取り組みを強化する。費用面では、省エネ活動の推進、適正な人員配置の見直しを図っていく年としたい。

入居者へのサービス面では感染症対策を継続しつつ入居者の安心や生活の楽しみ・生きがいに繋がるようなサービスを計画的に行うことや入居者と園との意見交換を活発に行う中で、信頼される園作りを目指したい。

人材育成は職員個々の強みに合わせた活躍できる場を意図的に作り、成長できる機会を増やしていく。また連続休暇の取得や超勤が当たり前にならないメリハリのある働き方を推奨していく。

ケアサービスにおいては、個別性や尊厳を意識したケアの提供と人生会議の実施、見守りシステムの活用やサービスの量的標準化を参考に業務改善を行っていく。

公益的な取り組みとしては、地域のニーズを確認し松山エデンとしてどのような事が貢献できるか、入居者と一緒に考えながら進めていく。また暫く中止されていた地域合同防災訓練や夏祭り等があれば積極的に参加し地域貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 入居率85%を目指す。新規契約戸数 17戸19名
 - (イ) 月払い方式の導入等、入居検討者のニーズに応じた介護居室直接入居の強化
 - (ウ) 居宅支援事業所訪問月10件、見学会年4件+随時、ねんりんピックでの広報活動

(エ) 介護サービス提供量に見合った介護度への変更の推進

(オ) 喫食率向上を目指した取り組み

2. 人材の育成

(ア) マネージメント能力・リーダーシップ能力の向上

(イ) 目標参画・各種ラダーを活かしたOJTの実践

(ウ) 見守りシステムを活用した業務改善

(エ) 職員個々の強みを生かした役割分担

(オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・おもてなしの心の醸成

3. よりよいサービスの提供

(ア) 全課参加型の年間行事の実施

(イ) 見守りシステムを活用した質の高い個別ケアの実践

(ウ) 満足度調査の課題解決への取り組み

(エ) エデンで一番おいしい食事を提供する

(オ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の理解と体制作り

4. 安心安全な施設環境づくり

(ア) 各種非常時・防災関連マニュアルの定期的な見直しと定期訓練の実施

(イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応の徹底

(ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止

(エ) 省エネ活動の継続的な取組と適切な設備更新

5. 地域における公益的な取組

(ア) 入居者参加型の公益的な取り組み内容を検討・実施する

(イ) 地区社協や民生委員との繋がりを持ち、地域に根差した園作りを行う

(ウ) 地域合同防災訓練や夏祭り等への積極的な参加

【数値指標】 2023 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	99 戸		25 戸		124 戸		
入居者数	114 名		26 名		140 名		
入居率	89.2%		71.4%		85.0%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	18 名	5 名	9 名	9 名	10 名	3 名	6 名	

職員数(常勤換算)	50.9 名
サービス活動収益	281,280 千円

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2022年度は長期化する感染対策を余儀なくされたが、少しずつ With コロナの園内活動ができるようになり、協力いただいた入居者と職員の頑張りに感謝申し上げます。運営面では、21年ぶりの管理費改定を実施した。募集活動は個別見学中心に予算件数に近づき、大規模修繕は計画通り実施できた。

2023年度は、With コロナでの感染対策を継続し、物価高・水光熱費高への対応を取りながらも、サービス水準を維持した施設会計改善を図る。経営方針では、「安心・安全を基盤としたサービス提供と質向上」「自ら考え課題解決できる職員の育成」「安定した施設運営・経営」に注力する。「サービス提供と質向上」については、ICT（情報通信技術）などの次世代技術を取り入れ、ケアサービス部門において見守りシステムを稼働し、入居者の安全確保と職員各自の生産性を高める。食事部門においては、満足度調査や食事懇談会での意見を参考にメニュー改革に取り組む喫食率向上に繋げる。「職員の育成」については、利用者目線のサービス提供ができる地元人材を中心とした職員を育成し、やりたいことを積極的に発信できる働きやすい職場環境を創り出す。また、継続してEPA（経済連携協定）や留学生による海外の介護人材を育成していく。「安定した施設運営・経営」については、さらなる入居率向上を目指し、医師の働き方改革を見据えた附属診療所の今後の医療提供体制について検討を開始する。施設整備では、入居者の利便性向上につながる計画修繕を進めていく。油壺エデンの園がさらに潤いのある生活の場所となることを目指し、コロナ禍により希薄となった入居者・職員の間関係やコミュニケーションを取り戻し、入居者・職員の安心、安全、幸せに繋がる園運営をしていく。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と こちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. SDGs を意識した環境・省エネへの取組強化と地域における公益的な取組
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) 基本感染対策徹底による拡大防止
 - (ウ) ICT（情報通信技術）の活用と標準サービスの検証
 - (エ) With コロナの潤いある行事の実践
 - (オ) 食事メニュー改革と「楽しくて美味しい食事」の提供

- (カ) 接遇向上のための知識と技術の習得
- (キ) リスク対策評価の徹底による再発防止

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいとやりたいことのある働きやすい職場環境づくり
- (イ) 部署間連携と職員間コミュニケーションの強化
- (ウ) 地元人材の活用と適正配置による業務効率の向上
- (エ) 職員個々の生産性向上のためのスキルアップ

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 施設会計改善と、入居率 95%（期末）以上確保
- (イ) 園内設備の計画的改修と実施
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 健康寿命延伸・自立支援促進の仕組みづくり
- (オ) 入院ベッドの適正利用と診療所体制の見直し検討

4. SDGs を意識した環境・省エネへの取組強化と地域における公益的な取組

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 多様な人材（高齢者・障がい者等）の就労機会を増やすための取り組み
- (オ) 三浦市社会福祉協議会と共同した介護フェスタ開催と地域フレイルチェック

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害の BCP 整備と実践的防災訓練の質向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

【数値指標】

2023 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	367 戸／379 戸	39 戸／45 戸	406 戸／424 戸
入居者数／定員	454 名／500 名	39 名／50 名	493 名／550 名
入居率	96.8%	86.7%	95.8%

要介護	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
認定者数	16 名	21 名	34 名	21 名	15 名	16 名	16 名	139 名

職員数(常勤換算)	139.0 名
サービス活動収益	1,125,270 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2022年度は、「カーサ・デ・かんぽ浦安」の移譲から15年の節目を迎え、入居者と共に15周年を記念したイベントを行った。コロナ禍が続く状況ではあったが感染予防策を講じ、介護予防を中心とした各種活動を徐々に再開した。2023年度は、次の節目に向けて、更にサービスの質を高めていけるよう、施設理念「ご入居者を真ん中においた生活の創造」を念頭に、入居者が安心して生活できる施設づくりに努めていく。満足度調査の結果をふまえた改善の取組みの継続や、導入したICT・介護ロボット等の積極的な活用、専門性を高める職員教育や接遇力向上の取組みを柱にサービスの質の向上を図る。入居者の平均年齢が83.8歳と高齢化し、必要なサービスが多様化している状況に対応していけるよう職員の知識技術の向上にも努めていく。長期化するコロナ禍で余暇活動が減少し、心身の不活発な状態を改善するため介護予防活動や楽しめるイベントの企画等の充実に向けた取組みを実施していく。災害等のリスク対策については、備蓄や設備の見直しや更新を継続し強化を図る。感染症対策についても取組みを継続し、集団感染の防止に努める。人材確保や育成、離職防止については、各課の連携を強化し、働きがいのある職場風土の醸成により組織力向上を図っていく。

経営面では、安定した収益確保のため、積極的な募集活動の展開と計画的な居室改修を行い、入居率95%以上の維持に取組む。物価高騰による影響を最小限に食い止めるためにも、経費節減の取組みにも注力する。レストランでは、満足度を高める食事サービスの提供を目指し喫食率向上に努める。また、地域に根差した施設を目指し、地域との交流に積極的に取組んでいく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 個別性・多様性のあるサービス提供
 - (イ) 満足度調査の実施と結果を踏まえた改善の取組み
 - (ウ) 介護予防活動をはじめとした余暇活動の充実に向けた取組み
 - (エ) 入居者の満足度を高める食事サービスの提供
 - (オ) 入居者の意思決定を中心にした看取り介護の実践
 - (カ) ICT・介護ロボット等を活用しサービスの質の向上を図る

2. 働きがいのある職場風土の醸成

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
- (イ) コミュニケーションのとれた働きやすい職場づくり
- (ウ) 人材育成の取り組みにより組織の質の向上を図る
- (エ) 職場環境づくりによる離職防止の取り組み

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア) 感染症対策を継続し感染拡大を防止する
- (イ) 災害対策の推進と防犯・防災の実践的な訓練の継続
- (ウ) リスク対策の強化と発生時の迅速な対応

4. 安定した施設経営の実現

- (ア) 入居率 95%の達成と維持
- (イ) 安定した収益の確保
- (ウ) 経費節減の取り組み

5. 地域における公益的取り組み

- (ア) 地域との交流を深める取り組みの実施
- (イ) SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取り組みの実施

【数値指標】

2023 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	189 戸	25 戸	214 戸
入居者数	224 名	25 名	249 名
入居率	96.9%	86.2%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	14 名	13 名	18 名	7 名	6 名	8 名	5 名	

職員数(常勤換算)	68.5 名
サービス活動収益	440,040 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2022年度は全居室に設置した見守りシステムを本格運用したことで、入居者の生活を科学的な視点で捉えたケア実践や業務改善につなげることができた。新たなサービスとして、有料老人ホームにおける短期利用サービスを開始し、利用実績を得ることができた。

2023年度はケアの在り方として、介護や医療が必要になっても「自分らしく暮らし続ける」ことを支えらえるケアの推進を図っていく。そのために入居者の生活を多角的に捉えることができる視点を強化すること、入居者の「できること」「やりたいこと」に着目することが重要である。また聖隷横浜病院との連携強化を図っていくことや、ICT化や介護ロボットの導入により専門職が「人にしかできないこと」に注力できる環境作りと業務改善・負担軽減を図っていききたい。さらに現在、提供しているサービスの質を向上させるため、また効果的に人材を育成するために、次世代介護機器やデジタル技術の活用など先駆的な取り組みを常に考えていきたい。入居者募集活動においては、短期利用サービスやセミナー等でケアの特徴を知ってもらう機会を持つとともに、入居受け入れ期間を意識した受け入れ体制を構築する。また地域の中で信頼される施設となることを目指して、防災活動や地域交流活動に取り組んでいきたい。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
2. 働きがい重視した人材の採用・育成体制の構築
3. 経営基盤の安定と永続性の確保を図る
4. 新たなサービスの創造
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「自分らしく暮らし続けられる」ことを支えるためのケアの推進
 - (ア) 見守りシステムを活用した科学的介護の実践
 - (イ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
 - (ウ) 入居者が生き生きと暮らせる活躍の場や機会を創設する
 - (エ) 入居者の個別性に応じたリスクマネジメント（事故予防、事故発生後の原因分析・対策）の実践
 - (オ) 入居者満足度調査の結果に基づきサービス提供の改善を図る

2. 働きがいを重視した人材の採用・育成体制の構築

- (ア) 専門職としてのやりがいに着目したエデン版キャリアパスモデルと教育体系の構築
- (イ) 役職者のマネジメント能力の向上
- (ウ) 他施設、病院との学習会や共同研究を実施し、専門職としての知識・技術向上につなげる
- (エ) デジタル技術を活用した教育・研修システムの導入検討
- (オ) 多様な働き方に対する雇用機会の創設

3. 経営基盤の安定と持続性の確保を図る

- (ア) 平均入居率 95%の維持
- (イ) 園の強みをアピールするために各課職員が参画する募集活動の推進
- (ウ) 稼働率・入居受け入れ期間を意識した入居受け入れ体制の構築
- (エ) 体験利用者・短期利用者の確保
- (オ) 感染症・自然災害に関する BCP に基づいた訓練の実施

4. 新たなサービスの創造

- (ア) 介護次世代技術の導入検討
- (イ) 選択食の導入検討と残食を削減するための献立作り
- (ウ) 業務の ICT 化と効果を支援に活かす仕組み作り

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域防災連携の構築
- (イ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座を実施（健康講座、在宅介護講座、高齢者が食べやすい食事作り講座等）
- (ウ) 入居相談時に介護相談窓口としての機能を果たす取組み

【数値指標】

2023 年度期末

	2022 年 3 月末	2023 年 4 月～ 2024 年 3 月	計（退去 10 戸除く）
契約戸数	45 戸/50 戸	48.7 戸/50 戸	50 戸/50 戸
入居率	90%	97.4%	100%

※新規入居戸数を 18 戸、退去戸数を 13 戸で計上

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0 名	3 名	8 名	12 名	11 名	7 名	8 名	49 名

職員数(常勤換算)	47.1 名
サービス活動収益	276,900 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2022年度はコロナ禍の影響はあったものの、感染対策を行い入居者の協力も得られたことで感染拡大することなく事業継続ができた。さらに感染対策を行いながら行事開催や地域との交流も再開できた。一方、一番館での住宅型有料老人ホームとしてのサービス体制の仕組みづくりや、防災・感染対策については継続的に取り組んでいく。人材確保は、新たな募集方法の確立と職員の定着に向けた業務改善が必要である。

2023年度は感染対策を継続しながら、利用者により満足していただけるサービスの提供を追求していく。住宅型有料老人ホームとしてのサービス体制の仕組みづくりについては、在宅事業所や二番館との更なる連携の強化を図っていく。ICTの活用については、各種システムを活用し業務の効率化を図る。また、神奈川県や行政が実施している4つのロボット実証実験に2022年度から参画し実践の場への導入を試みてきた。2023年度もそれを継続し、利用者サービスの質向上や職員の負担軽減等につなげていきたい。安心・安全の施設づくりでは、感染・災害・防犯対策についてマニュアルを見直し、2022年度に策定したBCP（事業継続計画）についてもブラッシュアップして検証する。安定した施設運営と持続性の確保では、感染対策を行った上で積極的な募集活動を行い安定した稼働率を目指すとともに、費用面では物価高騰対策を始めとした効率的な事業所運営を推進する。人材確保と育成の強化では、介護支援機器等を積極的に導入して業務改革を進めると共に接遇研修を行い、職員が長く働きたいと思える組織づくりを推進する。地域における継続的な取り組みでは、訪問看護ステーションの健康増進活動や藤沢市フードバンクへの支援を継続して行っていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安心・安全の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組みへの注力（地域・社会とのつながりの推進）

【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. より良いサービスの追求
 - (ア) 利用者満足度を上げるサービスの提供
 - (イ) ICTを活用したサービスの推進

2. 安心・安全の施設づくり
 - (ア) 各種マニュアル（感染・災害・防犯）に沿った訓練の実施
 - (イ) 感染・災害・防犯に対応できる職員の育成
3. 安定した施設運営と永続性の確保
 - (ア) 予算達成に向けた稼働率の維持
 - (イ) 物価高騰対策の実践と効率的な事業所運営
4. 人材確保と職員育成の強化
 - (ア) 人材確保と働きたいと思える組織づくり
 - (イ) 接遇技術を向上させるための研修実施
5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域連携活動の実践
 - (イ) SDGs を意識した取り組みの推進

【藤沢エデンの園 一番館】

入居者が、一番館で長く心豊かな生活を送ることができるようにサービスの仕組みを整え、より安心できる施設運営を目指す。また、職員教育に取り組むことで職員個々が施設職員としての役割を果たし、サービスの質向上を図る。

1. 利用者満足度を上げるサービスの提供
2. 感染・災害・防犯に対応できる職員の育成と訓練の実施
3. 接遇をはじめとする職員育成の強化

(数値指標)

2023 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	207 戸／209 戸	—	207 戸／209 戸
入居者数	261 名	—	261 名
入居率	99.0%	—	99.0%
職員数(常勤換算)	52.8 名		
サービス活動収益	401,830 千円		

【藤沢エデンの園 二番館】

「安心で安全なサービス」を提供するためサービスの質の向上を目指す。また、一番館入居者の住み替えと直接入居者をコントロールして入居率を維持する。

1. 安心で安全なサービスの提供
2. 職員の確保と業務整理を行い職場環境の改善を目指す。
3. ICT を活用した業務改善

(数値指標)

2023 年度期末

	2023 年 3 月末	2023 年 4 月～2024 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	42 戸／50 戸	42.3 戸／50 戸	45 戸／50 戸
入居率	84.0%	84.6%	90.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0名	1名	3名	6名	12名	13名	10名	45名
職員数(常勤換算)	39.0名							
サービス活動収益	199,830千円							

【藤沢愛光園】

入居者の状態に合った適切な福祉用具やロボット等の導入により、入居者に安心・安全・安楽な介護の提供と職員への身体的負担の軽減を目指す。

一方、コロナ禍においても感染対策を講じた上で入居者・職員が共に楽しめるようなレクリエーション活動や行事の開催を積極的に進めていく。

また、職員のスキルアップのため、外部研修等の参加の機会を設けていく。新たな取り組みとして電子媒体等を使用しながら開かれた施設を目指す。

1. 安心・安全・安楽な暮らしの提供
2. 経営の安定化
3. 職員が働きやすい環境づくり
4. 感染・災害に備えたしくみづくり

(数値指標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価(1人1日あたり)	15,230円	15,082円
サービス活動収益	544,960千円	100,740千円
職員数(常勤換算)	68.3人	13.8人
職員数(常勤換算)	82.1人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2023年度は、利用者の機能評価や個別機能訓練が見える形にして提供し、利用者が主体的に機能維持・向上に取り組める支援を継続し、利用者・家族が効果を実感できるようにしていく。また聖隷藤沢ウェルフェアタウンの利用者が安心して過ごせるような居場所作りの一環を担える体制作りを行っていく。職員には自身のキャリア支援ができるような職場作りを継続して行っていく、利用者・職員ともに満足度の高いデイサービスを目指す。

(数値指標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	20.8件	535.6件	6427件	10.4件	125件	11,528円	42,183円	85,030千円
半日	2.7件	69.2件	830.3件	—	—	6,805円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

各ケアマネジャーが自己研鑽し、ケアマネジメント力の向上を図る。藤沢エデンの園一番館の入居者や地域から信頼される事業所作りを実践し、早めの対応で重度化を防止し、住み慣れた環境で生活ができるように支援する。

(数値指標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,620件	442件	17,200円	6,720円	144件	4,500円	30,930千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族の満足度を上げるサービスの追求と自助力を支えるケアを提供する。コロナ感染症や災害にあっても事業継続可能なBCPの構築を行う。事業所全体の質の向上のため人材育成と利用者満足度調査や第三者評価を行う。聖隷藤沢ウェルフェアタウン内外の連携を図りながら選ばれる事業所を目指す。

(数値指標)

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
124.0名	883.0件	9,110件	9,847円	89,630千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

藤沢エデンの園一番館の入居者が長く自宅で生活できるよう、新しいサービスの提供体制を整える。質の高いサービスが提供できるよう職員の育成を図りながら、地域や藤沢エデンの園一番館の入居者一人ひとりが安心して自分らしく、自宅での生活が継続できるよう努める。

(数値指標)

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
449件	5,388件	110件	1,320件	261件	3,132件

単価			サービス活動収益
介護給付(回)	総合事業(月)	障害(回)	
4,100円	20,000円	4,237円	43,850千円

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2023年度は、各事業において With/After コロナを想定し3年間制限下にあった運営、サービスの見直し、総括が必要になると考える。具体的には、三密の回避をはじめとする基本的な感染対策基準の設定はもちろん、面会、各種イベントの開催（定員）、バス運行（定員・運行時間）について、また、LINEによる面会や家族への近況報告、在宅生活環境の見直しなどコロナ制限下において始まった新しいサービスの継続有無などについてである。感染予防効果とサービスの質のバランスを見極め、入居者・利用者にとって最良の選択肢になるよう努めたい。

安定した経営基盤の確立にあたり、電気、燃料費、業務委託料をはじめ物価全般の高騰の影響は大きくかつ継続的であるため、当面の節減方法はもとより管理費の見直しなど事業継続のための根本的な対策への着手は検討の時期にきている。

また、感染、災害対策として非常時における職員の対応能力の向上につなげるため、BCP（事業継続計画）に基づく訓練をより実践的な内容に充実させ、頻度を高める必要がある。

開園30年を経過し顕在化した課題※を直視し、解決に導く具体的な取り組みを検討する。マイメモリーシート（入居者人生録）の活用、人生会議開催をシステム化し、自立時から家族を含めた看取りケアまでをエデン版・地域包括ケアシステムにより、「誰一人取り残さない、その人らしく生きる」体制を推進する。

地域貢献において、近隣自治会との防災協定締結後も中止となっている自治会防災訓練が再開され次第、参加を予定している。また、職員による小学校児童の下校見守りについては、自治会、近隣住民から感謝の声もあがっている。高齢化を迎えている地域との課題共有にも寄与している側面もあり、継続していく方針である。

職員教育において、山積する課題に主体的に取り組む人材育成の基盤となる、職員の心理的安全性の確保に取り組む。また、相互連携など職員が複合施設の強みを認識、発揮できるよう交換研修を推進し、WAC施設としての在り方を改めて振り返り、新たな可能性を模索する年としたい。

※①入居者・利用者の孤立防止 ②身元引受人の高齢化 ③介護保険サービスの狭間

④職員年齢構成の偏在をふまえた採用・育成計画 ⑤選ばれる施設であるための接遇強化など

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) 「誰一人取り残さない、その人らしさを最期まで支えるケア」の推進
 - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
 - (エ) 食べる楽しみの追及と食堂の満足度向上
 - (オ) SDGsの活動を念頭に置いた取り組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設だからこそできる、入居者・利用者・患者ニーズへの対応
- (イ) 光熱費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し
- (ウ) 防災・防犯対策および自然災害における BCP（事業継続計画）に基づく実践対応能力の強化
- (エ) 選ばれる施設であるための計画的な設備更新と環境整備
- (オ) 職員年齢構成改善にむけた計画的な人材採用

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 採用力強化と定着への取組み
- (イ) 多様性を支える職場風土づくりの推進
- (ウ) 職場の魅力・強みを語る事が出来る職員の育成
- (エ) 交換研修実施の推進と、専門研修受講、資格の取得支援
- (オ) 職員の心理的安全性への取組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染 BCP（事業継続計画）に基づく実践力強化による集団感染防止
- (イ) 接遇マナー改善の取組みによる職員意識の向上
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組みの継続
- (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (オ) 業務全般への ICT 導入の推進と効率化の検証

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2022年12月1日現在において、入居契約件数398戸（一般居室350戸、介護居室48戸）入居率は96.6%（一般居室96.6%、介護居室96.0%）、入居者の平均年齢は全体で83.0歳である。

2023年度はWith/After コロナを想定し3年間制限下にあった運営、サービスの総括が必要になると考える。また、電気料、燃料費、業務委託料をはじめ、物価全般の高騰による事業経営への影響は深刻である。節減はもとより効率的かつ持続可能な運営を模索・実践していく。

「誰一人取り残さない、その人らしく生きる」体制整備のため、セカンド利用者のケア、独居の引きこもり予防、身元引受人の高齢化への対応などにも着手する。ケア部門では、マイメモリーシートの活用と人生会議をシステム化し、自立時から家族を含めた看取りケアまでを園内包括ケアシステムで推進する。

職員教育においては、職員がWAC施設の強みを認識、発揮できる風土を醸成するため、職場間で交換研修を推進する。また、選ばれる施設であり続けるために必須である接遇強化に取り組む。

不確実な社会情勢からの影響、ICT化、障がい者・外国人雇用といった多様性などに対し適応力が必要になる。“変化に強い組織づくり”のために職員の心理的安全性への取組みを強化する。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) 人生会議に対する理解を深め、その人らしさを支えるケアを推進する

(イ) エデン版・地域包括ケアシステムによる

「誰一人取り残さない、その人らしさを最期まで支えるケア」への取り組み

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

(エ) 食事をトータルで楽しむ企画・運営と満足度向上と喫食率1%UP

(オ) SDGs を念頭においた取り組み

2. 安定した経営基盤の確立

(ア) 燃料費・原材料費等の高騰をふまえた具体的対策と事業運営の見直し

(イ) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え

(ウ) 入居募集活動への協力と連携

(エ) 防災・防犯対策および自然災害におけるBCP(事業継続計画)に基づく職員の実践力向上

(オ) “住んでみたい”と思える空間作りと修繕・設備整備

3. 人財の育成・活用・定着の強化

(ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取り組み

(イ) 障がい者・外国人など多様性を支える職場風土づくりの推進

(ウ) 職場の魅力・強みを語る事が出来る職員の育成

(エ) 交換研修等の実施と職場還元による活性化

(オ) 職員の心理的安全性への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

(ア) 感染BCP(事業継続計画)に基づく実践力強化による集団感染防止

(イ) 身体拘束、虐待防止への取り組み

(ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止

(エ) 接遇マナー改善の取り組みによる施設全体の接遇力向上

(オ) 業務全般へのICT導入の推進と効率化の検証

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) WAC施設としての地域貢献・交流

(イ) 地域との災害時の協力体制の強化

(ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

【数値指標】

2023年度期末

	一般居室		介護居室			計		
契約戸数	351戸		49戸			400戸		
入居者数	466名		49名			515名		
入居率	97.0%		98.0%			97.1%		
要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	16.0名	27.0名	33.0名	20.0名	18.0名	17.0名	12.0名	143.0名
職員数(常勤換算)	105.3名					※有料老人ホーム部分		

◆ 高齢者総合福祉センター

2022年度は、感染症対策に十分に配慮した上で、隣接の河合町立文化会館まほろばホールを利用して一部の講座を実施した。また、園内の感染状況が拡大する中においては、地域住民の参加の機会を減らすことなく、地域住民限定で講座を開催した。

2023年度は、引き続き感染予防を十分に行った上で講座・イベントを開催する。講師の引退で終了した色鉛筆ぬり絵講座には再開の希望が寄せられており、新規講師を招聘し再開を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2022年度は、新型コロナウイルスワクチンの追加接種及び奈良県独自の発熱外来の認定を受け、コロナ検査の受入れを行ったことにより、大幅な増収につながった。4月からは皮膚科を開設したことにより、高齢者の皮膚トラブルに対応し患者数の増となった。10月にはCTの更新を行い、冠動脈造影CTが実施できる体制を整えた。

2023年度は、新型コロナの診療報酬の臨時的対応が終了する可能性があり、今後の診療体制の在り方も検討する必要がある。また、電子カルテへの移行のための準備をプロジェクトチームで進め、3月の本稼働を目指す。入院では在宅部門と連携を行い、レスパイト入院の積極的な受入れを行い、安定的な入院患者の確保に努める。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2022年度は、8月から9月、11月から12月の2回、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えクラスターとなった。その間ショートステイ、入所の受け入れが停止となり入所稼働率の著しい低下となった。通所リハビリテーションに関しては、新型コロナウイルス感染症の感染者がでなかったこと、新規利用者の相談件数も多く、お試し利用後の契約増加により安定した稼働を維持できた。費用に関しては、不安定な社会情勢による光熱水費の高騰が、収支に大きく影響した。

2023年度は、利用者、職員の新型コロナウイルス感染症の感染予防とクラスターにならない対策に取り組み、新型コロナウイルス感染症と向き合いながら利用者生活の満足度をあげたい。引き続き物価、人件費、水光熱費の高騰により厳しい施設運営となるが、居宅事業所、病院との関りを重視すること、受け入れ態勢を見直し、「強化型老健」の維持と収支改善による経営安定を目指す。

◆ ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらケアを工夫して対応することで。介護保険収益・福祉用具貸与収益は前年比・予算比ともに達成することができた。

2023年度は、コロナウイルス感染症に対してケアを止めることなくサービスを提供できるよう取り組む。地域の方が住み慣れた場所で少しでも長く安心・安全に生活できるよう3部署が連携をとり、『在宅サービス室』として協力しながら安定した収益確保に取り組む。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2022年度は、増え続けるリハビリの依頼、医療保険の頻回訪問をできる限り断らずに対応した。グリーンケアを再開しターミナルケアの充実を図ることもできた。

2023年度は、職員数の充実に見合った訪問件数の獲得を目指し、ケアの質をより充実させることが新たな利用者に繋がることを全スタッフが意識し、地域で選ばれる訪問看護を目指す。

◆ ニッセイせいいケアプランセンター西大和

2022年度は、サービスの質の向上に繋がるよう第三者評価を実施した。また、重層的な支援が必要な利用者の支援を保険者や他機関と連携を図ることで、利用者数を増やし予算を達成できた。

2023年度は、感染症や災害の発生に備えた業務継続計画の策定、研修・訓練（シミュレーション）を在宅サービス室全体で行い、地域との連携を強化し、選ばれ続ける事業所を目指す。

ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防・感染拡大防止を念頭に置いた運営を強いられることとなった。コロナ対応最優先という困難な状況ではあったが、4号館開設により介護居室が6戸増えたことで日常的に介護が必要な方に適切な環境を提供できるようになり、スムーズに住み替えが進んでいる。加えて、介護居室での見守りシステムの導入開始、介助浴室の改修によるチェアインバス・ミスト浴等の導入、ノーリフトケアの推進など入居者にとっても職員にとっても快適で安全な介護環境を充実させることができた。

先の見通せない時代であるが、当園では高い入居率の維持がサービスの充実や経営の安定における強みとなっており、WAC 事業としての総合性を基に、2023年度も引き続いて入居者および入居検討者等から高い満足を得られるように各事業のサービスの質とブランド力の向上に努める。また、サービスや運用の標準化も必要であり EQC（エデン・クオリティ・コントロール）を通じて整備を図っていく。人材育成や信頼関係向上において自分たちがやっていることを知る・知ってもらうことが重要であり、入居者や職員間で相互理解が進むように広報の充実を図っていく。経営面では、電気・ガス料金が大幅かつ急激に上昇する中、電気・ガス使用量の節約に努めたものの費用の増加を吸収するには至らず、大幅な光熱費増となっており、原材料費の高騰や最低賃金の上昇などその他費用の今後の増加も念頭に置いた上での、永続的な経営体制の構築が必要である。2023年度はコロナ禍との共存を踏まえた新たなサービス体制の創造、頻発する自然災害への備えの充実、相互理解の推進と地域社会との関係の再構築などを念頭に、以下を重点項目として取り組む。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とっていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取組み強化

【事業・運営計画】

◆ 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. サービスの質の向上
(ア) コロナ禍と共存しつつ満足度の高いサービス提供への移行

- (イ)日々の困りごとに対するサポートの充実 (BSC (バランスト・スコアカード) 管理目標)
- (ウ)食事の満足度向上 (BSC 管理目標)
- 2. 人材の育成
 - (ア)実習、研修の積極的な受け入れ
 - (イ)サービス業の意識向上に関わる研修の開催
 - (ウ)職員採用ホームページの整備
- 3. 経営基盤の安定
 - (ア)喫食率の向上など収入基盤の再構築
 - (イ)働き方改革の推進
 - (ウ)EQCに基づくマニュアル・書式等の整備と監査の実施
 - (エ)ブランド力強化につながる広報戦略 (外部・内部) の策定
 - (オ)相互理解につながる入居者向け、職員向け情報発信ツールの構築
- 4. リスク管理体制の強化
 - (ア)防災備蓄、防災設備の充実
 - (イ)防災マニュアルの改訂
 - (ウ)地震、火災、感染、行方不明等の訓練の実施・定着
- 5. 地域社会と連携した事業展開
 - (ア)WAC 施設としてコロナ禍からの回復を企図した地域貢献
 - (イ)SDGs・社会的責任を意識した取り組みの実践
 - (ウ)隣接する市立東松戸病院閉院 (2024年3月末) に対する準備
- 6. 地域における公益的な取り組み
 - (ア)WAC 事業としてコンサートや講座、健康増進施設の地域住民への公開
 - (イ)松戸市との災害避難所協定
 - (ウ)地域清掃活動や松戸市社会福祉協議会とのフードバンク活動

【数値指標】

2023年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	293戸	41戸	334戸
入居者数	369名	44名	413名
入居率	93.0%	95.3%	93.3%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	34名	23名	23名	20名	9名	18名	6名	133名

職員数(常勤換算)	118.02名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆ 診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2022 年度も、前年に引き続き新型コロナウイルス蔓延に伴い、感染予防・拡大防止の中心

的役割を担う1年となった。ワクチン接種においては入居者ならびに従事者の4回目、5回目を速やかに実施することができた。これまでと同様に感染予防・拡大防止の中心的役割を担いつつ、診療機能を落とさず患者が望む医療を提供していく必要がある。そのためには、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。昨今、Web研修が中心となっているが、感染対策を行ったうえで外部への研修にも積極的に参加させ、職員の能力を引き上げていく機会を多く設けることが重要となる。また、外部医療機関との連携は感染対策に留意しながらも継続し充実させなければならない。経営面においては、取得できる施設基準は速やかに申請し体制整備が必要なものは早期に準備を進めていく。患者、入居者に合わせた医療サービスを提供し、安心してクリニックを利用してもらうためにも、安全で感染管理やコンプライアンスに配慮した運営を行なうことが求められる。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課と連携した退院支援・退院調整の実践
- (イ) 看取り看護の質向上
- (ウ) 定期健診結果からの受診勧奨推進
- (エ) コロナ禍における認知機能低下・サルコペニアへの対応
- (オ) 高齢者に対する権利擁護の意識向上

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としての知識・技術向上の推進
- (イ) Web研修を中心とした外部研修参加とe-ラーニング受講の推進
- (ウ) 離職防止に向けた働きやすい職場風土の醸成
- (エ) キャリアラダーを活用した人材育成の推進

3. 経営基盤の安定

- (ア) 病床稼働率85%の維持
- (イ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年5%
- (ウ) 算定漏れのない請求業務の実践
- (エ) 市立東松戸病院閉院に伴う患者受入体制の構築の検討

4. リスク管理体制の強化

- (ア) I/A（インシデント/アクシデント）および警鐘事例に対する再発防止策の遵守と予防策の再検討
- (イ) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の徹底
- (ウ) 高齢者及び認知症患者への安全確保の推進
- (エ) クリニックにおけるBCP（事業継続計画）の検証

2023年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	5,300円	242日
入院部門	16.0名	13,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	750名	120名
職員検診	147名	

◆ 高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2022年度は、アカデミー教室の9講座で通常開催が可能となり、コロナ禍前のような入居者と地域の方の交流を育むことができた。イベントは入居者と地域の方を分けてではあるが、有観客イベントを定期的で開催した。

2023年度も引き続き SDGs を意識し、教室やイベントを通して仲間作りや生きがいのある生活の維持・向上を追求するとともに地域交流の拠点としてコロナ禍からの回復に貢献していく。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取組み
2. 入居者募集につながる魅力ある企画の立案
3. イベント・教室の開催を通して、地域社会との交流推進を図る

◆ ニッセイエデンヘルパーステーション

2022年度は、8月に新4号館に新事務所を移転オープンし、1月からは所長交代と変化のある1年となった。また、新型コロナウイルスの感染対策は、感染防止グッズの配布をはじめ全職員のワクチン接種、頻回な PCR 検査、定期的な抗原検査の実施などの感染対策を講じてきた。訪問利用者の陽性者発生に伴い職員の感染にも直面したが、感染拡大には至らずサービス提供ができた。2023年度は介護報酬改定で義務付けられた「感染症対策の強化」「BCP 業務継続に向けた取組みの強化」「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」（2023年度末までの経過措置あり）について園と連携しながら対策に取り組むと同時に、職員の専門研修への参加により実際に対応可能な体制を整えていく。

2023年度も入院・入所・逝去などによる利用者の急な契約終了に耐えうるよう、常日頃から関係機関と連携し新規受け入れ態勢を整え、安定した経営の継続を図る。

1. 事業継続に向けた新体制の構築
2. 地域のニーズに応えるため、訪問介護員のさらなるスキルアップ
3. 他課との連携による入居者へのサービス継続
4. コロナ禍においても利用者と職員がともに安心できる訪問介護事業の実践

2023年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	22.5名	5,000円
予防給付（月利用者数）	20.0名	19,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	14.0名	9,000円

営業日数=310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

高齢社会白書によると、2021年版に続き2022年版も高齢化率は28.9%と高い水準となっている。また、日常生活に制限のない期間（健康寿命）が伸びているとされている一方で、65歳以上の要介護者等の増加、特に75歳以上になると要介護者等の割合が大きく上昇していることが示されている。当施設でも平均年齢が87.4歳（2022年11月末時点）と10年前（2012年11月末時点）の82.3歳に比べ5.1歳高くなっており、入居者の要介護者等の率が25.7%（2012年11月末時点）から31.3%（2022年11月末時点）へと大きく上昇している。

2023年度は継続的な取り組みとして、フレイル予防の基本「栄養（食と口腔機能）」、「身体活動（運動や非運動性活動等）」、「社会参加（人とのつながりが特に重要）」の具体的な実施と評価、時代に合ったICT（情報通信技術）の導入等を進め、一方で様々な職員募集の手法を取り入れながら人員体制の充実を図り、ご入居者も職員も「笑顔」溢れる活気ある施設づくりを目指す。

地域における公益的な取り組みとして、地域の福祉施設との移動販売等を通じた関係の維持・拡大や、災害時における近隣企業との協力体制の構築（契約の締結）についても検討を進める。

また、2023年度は東京都住宅供給公社との5年契約の初年度にあたり、これまでの施設運営の他、新たに入居者募集活動も聖隷が担うこととなった。ここ3年は新型コロナウイルスの感染状況により募集活動の縮小が余儀なくされ、入居率が大幅に下がっている。聖隷がこれまで培ってきた、募集に関する知識・技術を十分に活用し、また、募集担当者だけではなく全職員が入居者募集の意識を持ち、新規入居者の獲得、入居率の向上に向け施設一丸となって取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組みの継続
 - (ウ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり

(エ) サービス充実のための時代に合った福祉用具・ICT 機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 次世代の育成・専門性の向上
- (イ) 接遇向上への継続的な取り組み
- (ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 行事等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 明日見らいふ南大沢の特徴を活かした地域との交流への取り組み
- (ウ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動・防災対策と地域における公益的取組

- (ア) ご入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取り組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直しと災害時における近隣企業との協力体制の構築

5. 入居者募集

- (ア) 全職員参加の募集活動の実践
- (イ) 入居検討者目線で企画するセミナー・イベントの開催
- (ウ) 高齢者公益事業部・各直営施設と連携し効果的な広報活動の実施

【数値指標】

2023 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	208 戸/317 戸		41 戸/53 戸		249 戸/370 戸			
入居者数/定員	244 名/429 名		41 名/53 名		285 名/482 名			
入居率	65.6%		77.4%		67.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17.8 名	14.7 名	29.3 名	14.0 名	14.3 名	10.5 名	2.4 名	
職員数 (常勤換算)	106.5 名							
サービス活動収益 ※	115,600 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ